

山元・徳泉寺

津波で流失「一文字写経」で資金調達

本堂再建歩み冊子に

東日本大震災の津波で流された本堂の現地再建を進める山元町等野地区の徳泉寺が、復興の歩みをまとめた冊子の製作を目指し、インターネットのクラウドファンディング(CF)で費用を募っている。



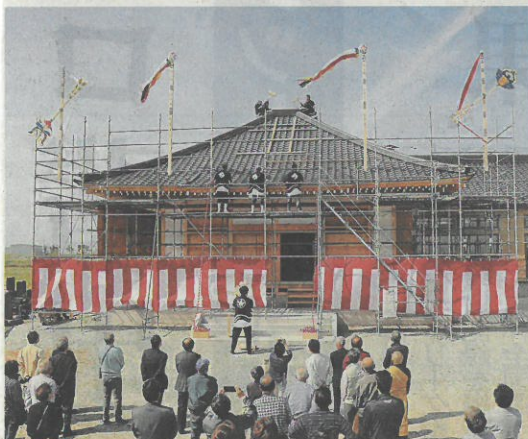
全国から寄せられた一文字写経

納経者一覧も 製作費CFで募る

冊子の題名は「青空があるじゃないか」。約100部、約2500部を計画する。本堂再建資金を集めるために実施した「一文字写経」の取り組みを紹介。はがきに復興を願う一文字を記し納経料5000円を納めてもらう仕組みで、全国延べ2200人以上の納経者一覧も記載する。

被災前の本堂や町内の水田で見つかった本尊、今年5月の上棟式の様子などをカラー写真で掲載する。冊子は納経者やCFの協力者に返礼として送る。

冊子名について早坂文明住職は「全てが流された境内に立った時、恨めしいほどの青空が広がっていた。その青空が再建に踏み出す力になった」と説明。「支援者に冊子を届けて恩返ししたい」と話す。申し込みはCFサイト「レディ1フォー」で。目標額150万円、募集期間は7月31日まで。徳泉寺は今秋、再建される。



5月にあった徳泉寺の上棟式。今秋再建を予定する